

平成30年4月1日から

健康づくり推進課 ☎内線1747

おたふくかぜ予防接種の 助成を拡充します!!



おたふくかぜ予防接種は、予防接種法に基づく定期予防接種ではないため、牛久市では、平成19年より1歳から4歳までの間の1回接種に一部助成を独自に開始しておりました。おたふくかぜによる難聴は、予後が不良で頻度も高い(患者の0.1~0.25%)ことから、WHO(世界保健機関)や日本小児科学会は2回接種を推奨しています。海外では、ほとんどの国で、2回接種が定期予防接種で実施されています。こうした背景の中で、竜ヶ崎市・牛久市医師会牛久支部の要望と協力により、2回の接種と全額公費負担が平成30年4月1日より開始されることになりました。

竜ヶ崎市・牛久市医師会 牛久支部長 鳥越啓隆先生からのコメント

牛久市内小児科医からの提案により、接種料金の無料化(1回目・2回目共)を医師会牛久支部として市に要望してきました。無料にすることにより、多くのお子さんが接種を受けやすくなり、更に2回接種することで重篤な合併症を予防することが可能となりますので、ぜひ接種を受けてください。市民のために、医師会牛久支部の要望を実現して下さった根本市長と関係部署の方々に感謝申し上げます。

1.対象者・接種回数・接種期間 対象者は、以下の条件と下表の生年月日に該当する方

- 接種日に牛久市に住民票がある方
- おやふくかぜに罹患したことがない方
- おたふくかぜワクチンを2回接種していない方

※今までのおたふくかぜ予防接種助成内容
【対象】1~3歳児 【回数】1回 【接種料金】一部自己負担あり

区分	対象者(接種期間)	回数	H30年度対象者
1期	1歳児 (1歳の誕生日~2歳の誕生日前日まで)	1回	H29年4月2日生まれ~ H30年4月1日生まれ
2期	小学校入学前の年長の学年に相当する方 (小学校入学前年4月1日~小学校入学年3月31日まで)	1回	H24年4月2日生まれ~ H25年4月1日生まれ

*対象となる方には個別に通知いたします。

2.接種料金

牛久市内で接種した場合のみ、
全額公費負担(無料)

3.接種方法 医療機関での個別接種

市内おたふくかぜ予防接種協力医療機関は21カ所あります。詳細はすこやか・市ホームページ・個別通知をご覧ください。

4.予防接種の効果

約90%の方が免疫を獲得することができます。免疫ができると感染してもおたふくかぜの発症を防ぐことができます。また、75~93%の方が予防接種を受けることで、おたふくかぜの流行を抑える効果があるといわれています(国立感染症情報センター)。

★症状が出現する前から感染力があり、感染すると難聴などの合併症が起こる頻度が高いことから、ワクチンによってあらかじめ免疫を作り、予防することがもっとも重要です。

おたふくかぜ(流行性耳下腺炎・ムンプス)とは、ムンプスウイルスによっておこる全身性感染症です。

【感染経路】咳やくしゃみによって飛び散った唾液などによる飛沫感染と接触感染。

【潜伏期間】感染してから2~3週間後(平均18日前後)に症状が現れます。

【周囲の人に感染させる可能性がある期間】

耳下腺等の腫脹する数日前から、腫脹発現してから5日を経過するまで。

【主な症状】耳下腺・顎下腺・舌下腺等の腫脹と圧痛。発熱は、1~3日程度続く。耳下腺等の腫脹は、発症後1~3日でピークとなり、その後3~7日で消失する。

【合併症】精巣炎、卵巣炎、膵炎、腎炎、髄膜炎、髄膜脳炎、感音性難聴

発生頻度は、無菌性髄膜炎が1~10%で最も多い。思春期以降の罹患は精巣炎や卵巣炎を起こす。最も警戒すべきは感音性難聴で、おたふくかぜ発症者約1,000人に1人の頻度で起こり、聴力の回復が困難となる。

現状の流行状況で推計すると、年間700人~2,300人程度のムンプス難聴が発生している(片側難聴のことが多いが、両側難聴の場合もあります)。